

3.

全国の偏見・差別の実態

▶ 差別の実態は？

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、差別的な発言、排除、同調圧力が起きました。2020年9月、全国知事会が「新型コロナウイルス感染症に起因する偏見・差別の実態と対応に関わる調査」を行いました。その調査結果で明らかになった偏見・差別の実態を紹介します。

▶ 感染した人やその家族に対して

- 感染者が仕事で着用する制服を、市内のクリーニング店に持っていったところ、「コロナの洗濯はできません」「洗濯物を取りに来てください」と言われた。本人の名前が公表されていないにも関わらず、個人が特定されていた。
- 市内のレストランにおいて、感染者が在籍する大学と「(同じ)大学の関係者の入店はご遠慮を」との貼紙が貼られた。

▶ 医療従事者やその家族に対して

- 感染が明らかになった病院のスタッフであるということで、学童保育や保育所の受け入れを断られたり、配偶者が職場の出勤停止を命じられたりした。
- 医療スタッフの子どもが、同級生に「お前のお母さん病院で働いているんだろ。菌持ってくるんじゃない」と言われた。

▶ 社会福祉施設等に対して

- 集団感染が発生した社会福祉施設にいたずら電話が10数件、施設職員の家族に対する感染発生に関する苦情電話などがあった。
- 仕事で感染拡大地域を往来する運送業の保護者に対し、学校長が児童・生徒の自宅待機を要請した。

▶ 感染や関係があると疑われた人、県外在住者などに対して

- 県外ナンバー車所有者に対して、暴言などの行為がされた。
- 長期休暇に他県への帰省を済ませ、帰宅したところ、玄関ドアに生卵が投げつけられ、郵便受けの中にも生卵が流し込んであった。

▶ その他にも・・・

- 感染していない人が、親族の同僚などが感染したことや感染者が発生した店を訪れたことなどを理由に叱責・誹謗中傷、会社から休業を命じられた。
- 咳こんでいると老夫婦が追いかけてきて「おまえ、コロナにかかっているだろう、咳して拡散しているだろうが」と叱責され、ショッピングカートを足にぶつけられた。